

# 第 97 回宮崎大学眼科研究会

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 (59046)

◆日 時：令和 8 年 1 月 24 日（土） 16:00～19:00

◆会 場：宮崎大学錦本町ひなたキャンパス わくわくセンター  
宮崎市錦本町 4 番 5 号（宮崎北警察署向かい側）

◆会 費：2,000 円

— 日本眼科学会専門医制度登録証（カード）を必ずご持参ください。 —

## ～ プログラム ～

### 一般講演 I

16:00～17:00

座長 宮崎大学眼科 講師 日高 貴子

1 「Mucus fishing syndrome の 1 例」

○鎌田脩作、河野資之、中馬秀樹、池田康博 —宮崎大学眼科—

2 「当院で前房水 PCR を行った高眼圧患者 76 例についての検討」

○小西珠生、日高貴子、池田康博 —宮崎大学眼科—

3 「多発性後極部網膜色素上皮症に黄斑円孔を合併した 1 例」

○山下大貴、田村弘一郎、河野資之、池田康博 —宮崎大学眼科—

4 「免疫不全患者に発症した両眼性後天性眼トキソプラズマ症の 1 例」

○外山直樹<sup>1)</sup>、石津 正崇<sup>1)</sup>、高橋みどり<sup>1)</sup>、森 真喜子<sup>1)</sup>、杉田 直<sup>2)</sup>、池田康博<sup>1)</sup>

—宮崎大学眼科<sup>1)</sup> 杉田眼科医院<sup>2)</sup>—

5 「県立日南病院眼科年次報告」

○奥野佑介、松元寛樹 —県立日南病院—

6 「培養ヒト角膜内皮細胞移植の術後早期成績」

○吉満直哉、大谷伸一郎、子島良平、森 洋斉、宮田和典 —宮田眼科病院—

座長 宮崎大学眼科 准教授 中馬 秀樹

- 7 「ミトコンドリア病に伴う難治性兎眼角膜症に生じた角膜穿孔に対し保存角膜にて角膜移植を施行した1例」  
○満留一匠<sup>1)</sup> 2)、日高貴子<sup>2)</sup>、池田康博<sup>2)</sup>  
—宮崎県立宮崎病院<sup>1)</sup> 宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 眼科学分野<sup>2)</sup>—
- 8 「Paracentral acute middle maculopathy の1例」  
○和田英里香<sup>1)</sup>、池田康博<sup>2)</sup> —済生会日向病院<sup>1)</sup> 宮崎大学眼科<sup>2)</sup>—
- 9 「共同偏視による頭囲異常に対し、局所麻酔下での外眼筋手術が有効であった1例」  
○横川知弘、貝田智子、東 志津香、一井真由美、徳田祥太、大北陽一、木村亜紀子、  
宮田和典 —宮田眼科病院—
- 10 「Axenfeld-Rieger 症候群のトラベクトミー」  
○岡田守男 —新城眼科医院—
- 11 「モルガーニ白内障のエコー所見、術中所見および IOL scaffolding technique について」  
○柊山 剰、上岡弥生、森高ルミ、長岡まどか、今屋美佳 —柊山医院—

～ 休 憩 17:50～18:00 ～

座長 宮崎大学眼科 教授 池田 康博

## 『視野に魅せられた 40 年』

近畿大学医学部 客員教授 松本 長太 先生

視野検査は、眼科疾患の診断、経過観察のみならず、機能面からみた病態把握において欠かすことのできない重要な検査である。私は 1983 年近畿大学医学部眼科学教室に入局以来、なぜ物が見えるのかという素朴な疑問を常にいっていた。そして 1984 年に初代自動視野計である Octopus201 が大学に導入されて以来、長年にわたり継続的に視野研究に携わることとなった。自動視野計導入当時は、特に Goldmann 視野計では評価が困難であった黄斑部の機能評価を中心に研究を行って来た。また、それに関連して黄斑疾患で特に問題となる変視症についてもその定量化についての研究を進め、M-CHARTS の開発を行った。また、早期緑内障を対象としたフリッカ視野の開発、完全自動動的視野測定を目指した program K の開発、両眼開放視野測定、クロックチャート、タブレットを用いた視野異常セルフチェックについても精力的に研究を進めた。また最近では両眼ランダムに視野測定が可能なヘッドマウント型視野計 imo ならびにその後継機である imo Vifa の開発にも取り組んでいる。

過去の研究を振り返ると、歴史は繰り返すと言われるが、当時の研究テーマやアイデアが、最近になり、再び脚光を浴びていることも非常に多い。本講演では、私達が今までに取り組んできた視野に関する研究成果を振り返るとともに、若い先生方に臨床研究の楽しさを共有していただける機会となれば幸いである。